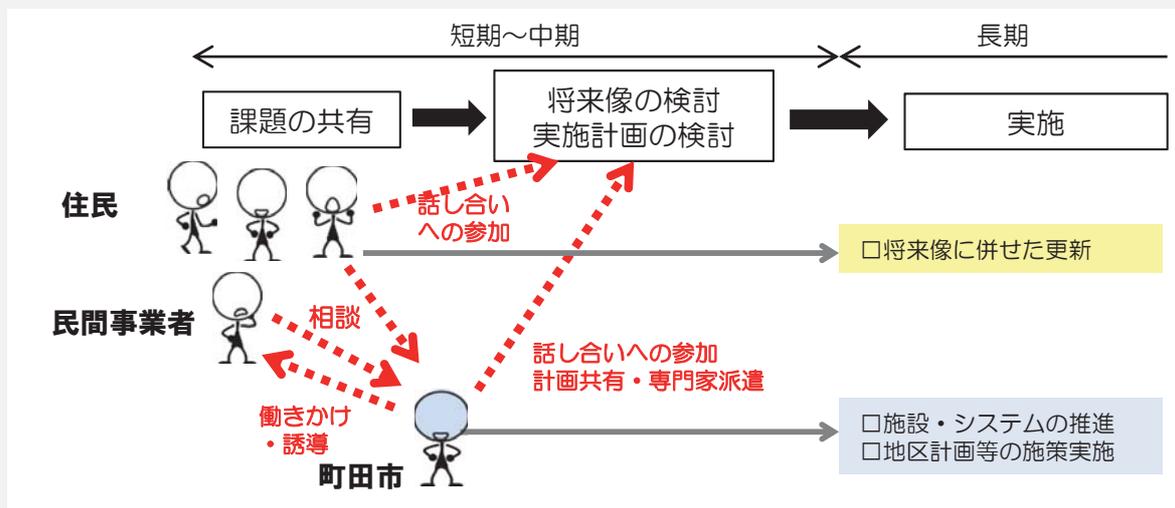


プロジェクトの進め方②

□ プロジェクトの進め方

- 町田市が良好な住宅づくりの実現に向けた働きかけや支援施設・システムの推進、地域発意の良好な住宅づくりの提案の実現に向けた支援を行う



□ プロジェクトの担い手

★：期待する担い手

【取り組み主体】 町田市

【関係者】 住民★ 民間事業者★

【町田市関係部署】 子ども生活部 いきいき生活部 都市づくり部

用語解説

- * ⑨地域包括ケアシステム：高齢者が要介護状態になっても可能な限り住み慣れた地域において継続して生活できるよう、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援の5つのサービスを一体化して包括的な支援・サービスを提供する体制のこと。

9

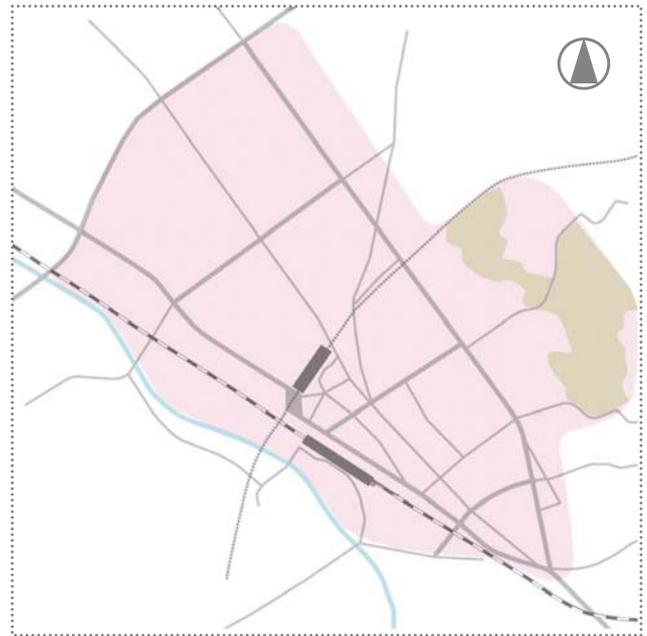
町田発 アート・カルチャー を楽しむプロジェクト

多様な楽しさや感動を味わえるように、新たな取り組み、文化芸術拠点の整備等を行い、町田発のアート・カルチャーを楽しむまちにします。

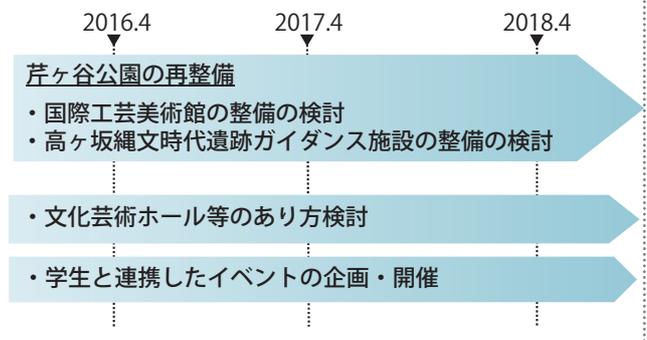
プロジェクトのイメージ



プロジェクトの対象範囲



プロジェクトの当面の主な取り組み



プロジェクトの効果

様々な場所でアート・カルチャーにふれあう機会が増える

➔ 目指すこと **02** まちに行く目的がたくさんある

活動を発表・発信する場が増え、様々な交流や新たな活動が生まれる

➔ 目指すこと **04** 多くの出会い・活動が生まれる

プロジェクトの取り組み

アート・カルチャーの拠点づくり

(仮称) 国際工芸美術館や(仮称) 高ヶ坂縄文時代遺跡ガイダンス施設、文化芸術ホールの整備によるアート・カルチャーの施設づくりや芹ヶ谷公園の再整備を進めていきます。

● (仮称) 国際工芸美術館の整備の検討

「良質な文化に触れる機会を提供し、
まちの賑わいに貢献していく拠点」

- ・周辺の文化施設や中心市街地の商店街などと連携し、まちの魅力向上、まちの賑わい創出につなげる(仮称) 国際工芸美術館の整備の検討



コレクション / (仮称) 国際工芸美術館整備基本計画

● 芹ヶ谷公園の再整備

「まちなかで人と緑が会い
ふれあう 芸術の杜」

- ・散策しながら芸術作品にふれあえるアート展示スペースの設置
- ・文化・芸術を中心としたイベントステージの整備

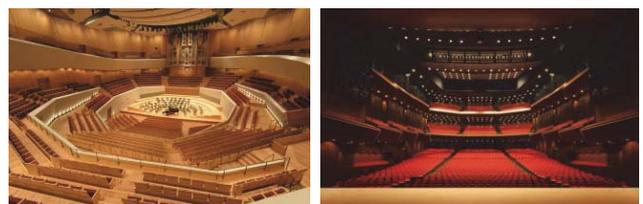


芹ヶ谷公園再整備基本計画図(素案) / 芹ヶ谷公園再整備計画(素案)

● 文化芸術ホールの検討

「まちの魅力を発信し、
賑わいを創出する拠点」

- ・音楽や演劇、イベントなど多様な用途に対応できる新たな文化芸術ホールの検討



ホールの例 /
左：ミューザ川崎シンフォニーホール
提供：ミューザ川崎シンフォニーホール
右：オリンパスホール八王子

● (仮称) 高ヶ坂縄文時代遺跡ガイダンス施設の整備の検討

「町田が誇る縄文文化の造形美にふれあい、
まちのルーツを体感できる拠点」

- ・国史跡高ヶ坂石器時代遺跡の展示を中心に町田の優れた縄文文化を市内外へ発信する(仮称) 高ヶ坂縄文時代遺跡ガイダンス施設の整備の検討



深鉢形土器

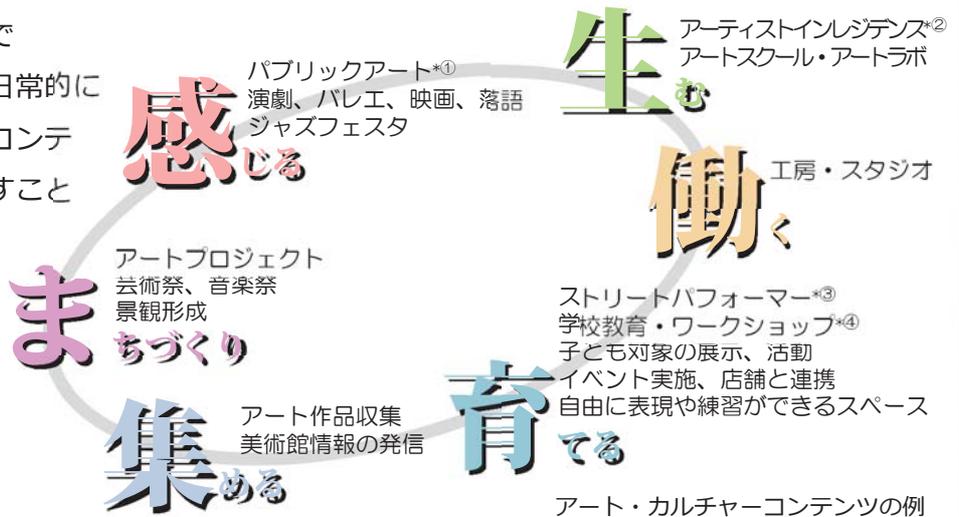


高ヶ坂石器時代遺跡

<取り組みのアイデア>

まちなかでのアート・カルチャーコンテンツの充実

来街者が、まちなかでアート・カルチャーに日常的にふれあうことのできるコンテンツやイベントを増やすことで、町田発のアート・カルチャーの発信と育成を行う。



【事例】 各地で行われているアート・カルチャーコンテンツの例



マイケル・ランディ《アート・ビン》2010/2014
撮影：加藤健 写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会

芸術祭／横浜トリエンナーレ
横浜で3年に1度行われる現代アートの国際展。アートを通して、まちにひろがり、世界とつながり、横浜のまちづくりに寄与しつつ、新しい価値を世界に発信することを狙っている。



アートラボ／アートラボはしもと（相模原市）

「アートラボはしもと」は、周辺にある美術大学などと連携し、そこで学ぶ美大生や卒業生、子どもたちや地域の方々、商店街や企業、学校、研究機関、市民グループなどと協力しながら、さまざまなアート事業を展開する「アートの活動拠点」



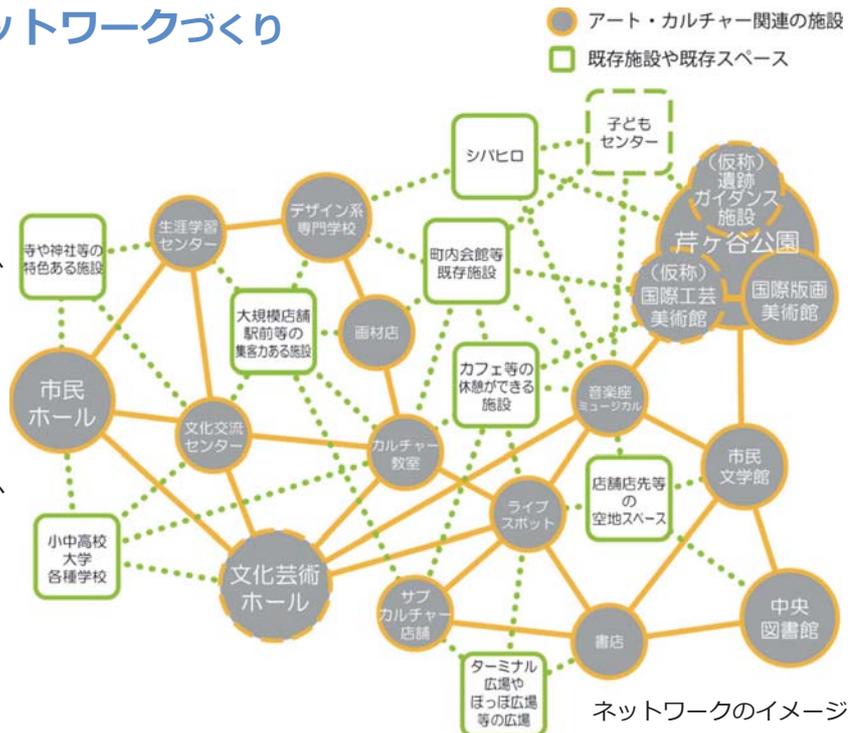
イベント／阿佐ヶ谷ジャズストリート

企業のロビー、喫茶店、レストランなど普段の生活空間がジャズの演奏会場となるジャズイベント

アート・カルチャーのネットワークづくり

町田に既にあるアート・カルチャーに関わる施設の可能性を広げるために、アート・カルチャーの拠点となる施設の整備、既存施設やスペースのさらなる活用、それらを中心としたネットワークづくりを行う。

また、施設間の連携を強化し、様々なアート・カルチャーの情報交換やブランディング*⑤、育成を互いに連携・結びつけながら進めていく。

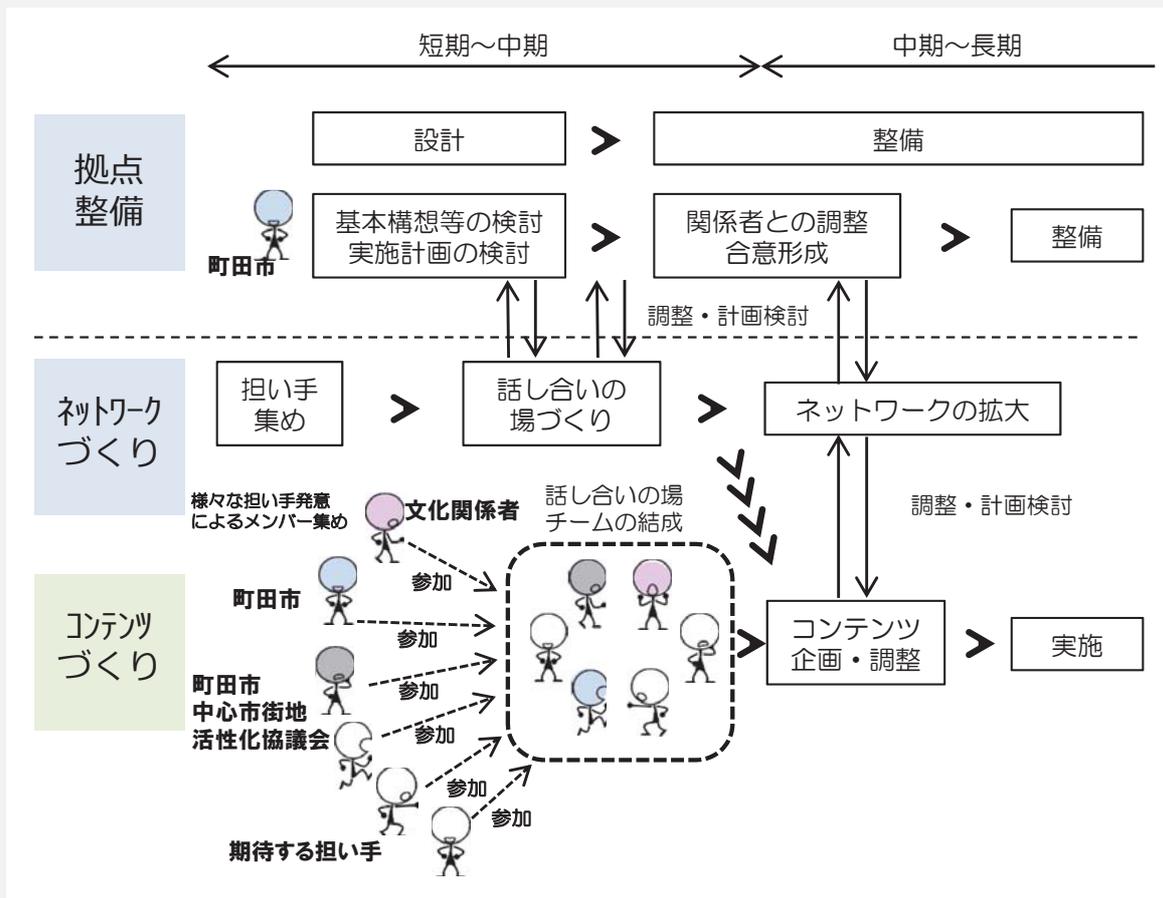


プロジェクトの進め方

□ プロジェクトの進め方

● 町田市が拠点整備の検討を行う

● 様々な担い手の発意と呼びかけで話し合いの場を作り、ネットワークやコンテンツをつくっていく



□ プロジェクトの担い手

★：期待する担い手

【取り組み主体】 町田市

アート・カルチャーに関わる人・団体・施設が集まる組織★

【関係者】 アーティスト★ 住民★ 学生★ 学校★ 活動団体★

文化施設所有者★ 民間事業者★ 町田市観光コンベンション協会★
国際版画美術館友の会★【町田市関係部署】 文化スポーツ振興部 経済観光部 都市づくり部
生涯学習部

用語解説

*①パブリックアート：公共的な空間（道路や公園など）に設置される芸術作品。

*②アーティストインレジデンス：ここでは、芸術家を一定期間ある地域に滞在させて、滞在中の創作活動を支援すること。

*③ストリートパフォーマー：街頭で曲芸や踊りなどを独自の表現で演じる人。

*④ワークショップ：ここでは、参加者自ら参加・体験して共同で学びあったり何かを生み出したりする場のこと。

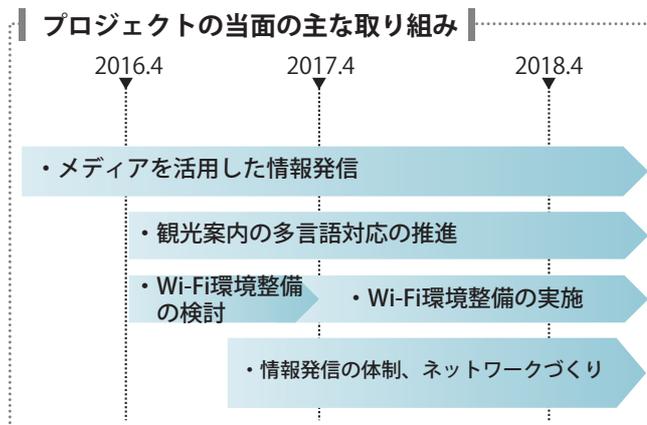
*⑤ブランディング：ブランドとして構築して価値を高めること。

10

まちの魅力 情報発信 プロジェクト

来街者数の増加、来街者の満足度の向上、
将来のまちづくりの担い手の獲得に向け、
まちの魅力やまちづくりの情報を、市内外
に発信します。

プロジェクトのイメージ



プロジェクトの効果

駅前でまちの情報を得ることができる

→ 目指すこと **01** 駅が快適・便利

まちの魅力を知る機会が増える

→ 目指すこと **02** まちに行く目的が
たくさんある

出会いや活動につながる、まちのイベント等の情報を得やすくなる

→ 目指すこと **04** 多くの出会い・活動
が生まれる

プロジェクトの目指す将来像

目的やターゲットに応じた効果的な情報発信の充実

情報発信の体制やネットワークを整え、様々な人々に向けて、まちの魅力やまちづくりの情報を効果的に発信します。

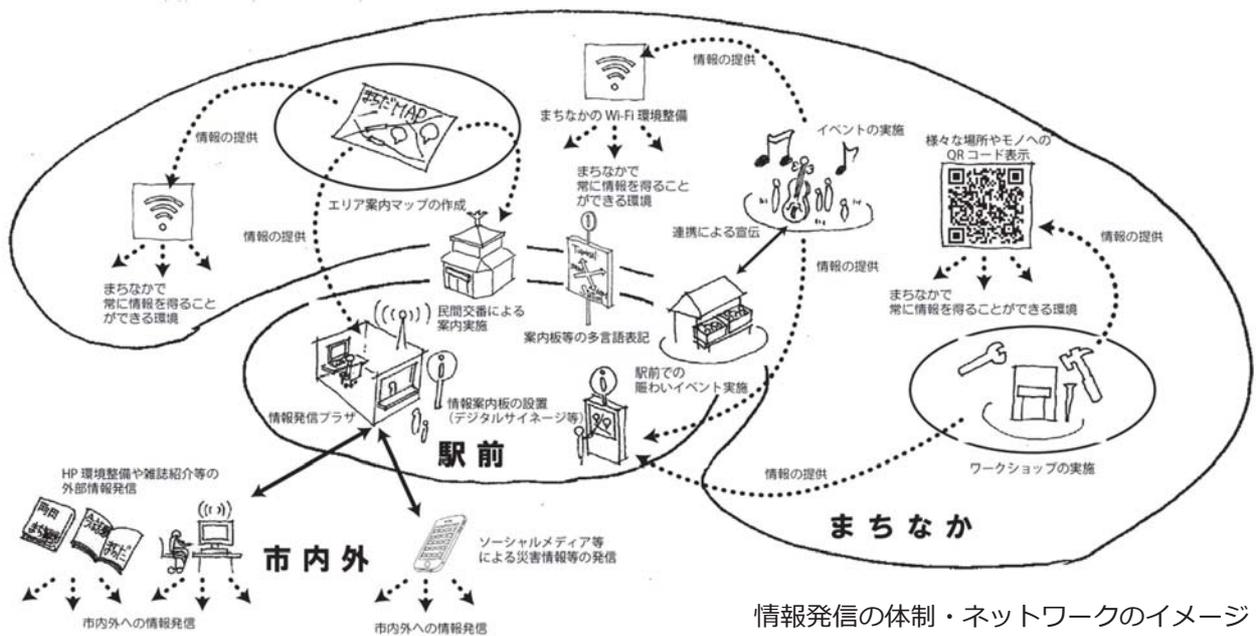
訪れた人々に
快適かつ楽しく過ごしてもらうための
情報発信

●駅前やまちなかでの案内強化

- 駅前における観光情報・地図情報等を伝える観光案内所
- 駅前やまちなかにおける情報案内板（デジタルサイネージ^{*①}等）や案内マップの設置

●まちの魅力を効果的に伝える工夫

- 公園、広場、商店街等の人々が集まる場所の活用や、様々な形態による“まちの魅力を伝えるイベント”の定期的な実施
- いつでもどこでもまちの案内やイベント情報を得ることができる環境整備（Wi-Fi^{*②}環境整備、QRコード^{*③}の活用等）
- インバウンド^{*④}に備えた外国人にもやさしい案内・サインの多言語表記

様々な人々に
訪れてもらうための情報発信

●市内外への情報発信の強化

- まち紹介ホームページの立ち上げ
- まち情報紹介の雑誌、テレビ、Webページ、ソーシャルメディア^{*⑤}等の積極的な活用
- まちなかのイベント情報の積極的な発信
- まちの情報を一括管理する情報発信プラザの設置
- 市民やまちで活動する人（まちだ自慢サポーター^{*⑥}等）による魅力の発信

まちづくりの新たな担い手を獲得
するための情報発信

●取り組みの紹介

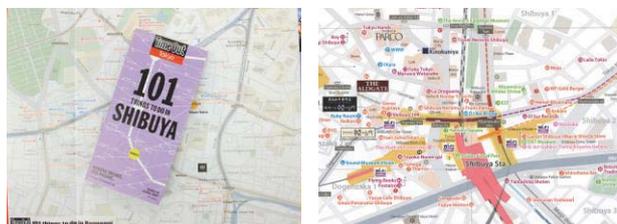
- まちづくりの取り組みや実施状況を紹介するホームページの立ち上げ
- 新たな担い手がまちづくりに参加しやすくなるような情報の積極的な発信
- 取り組みのアイデアの検討
- ワークショップ^{*⑦}等の開催

<取り組みのアイデア>

駅前におけるまちの 情報発信の仕掛けづくり

様々な人々が行き交う駅前で情報発信を行い、まちに人を引き込む仕掛けづくりを行う。

また、まちのコンシェルジュ*^⑧等による案内や、多言語に対応した情報発信による外国人観光客の来街に備えた仕掛けづくりを行う。



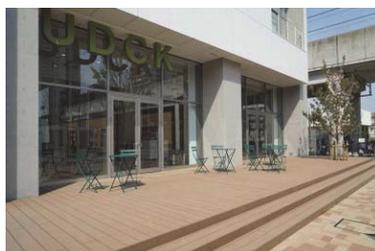
多言語対応の案内マップ
/タイムアウト東京「渋谷でしかできない101のことマップ」



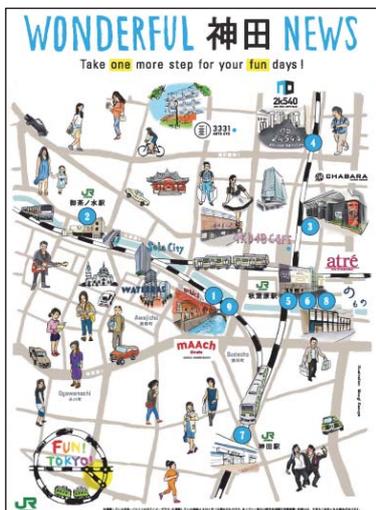
案内所 / 左：渋谷駅 右：吉祥寺 施設や飲食店が検索可能なデジタルサインージ^① / 渋谷駅

まちの情報や魅力を 市内外に発信する仕掛けづくり

まちの情報やまちづくりの取り組みを常に発信するホームページの立ち上げやファッション等の特定の視点で魅力を伝えるマップ・パンフレットをつくる。また、発信力を持つ人材の育成等により、情報を効果的に発信する。



イベント広場を備えたまち情報センター
/ 柏の葉アーバンデザインセンター
写真提供：柏の葉アーバンデザインセンター [UDCK]



まちの魅力を様々な視点で伝えるマップ作成や鉄道会社と自治体が協働した情報発信
/ WONDERFUL 神田 NEWS (JR東日本)

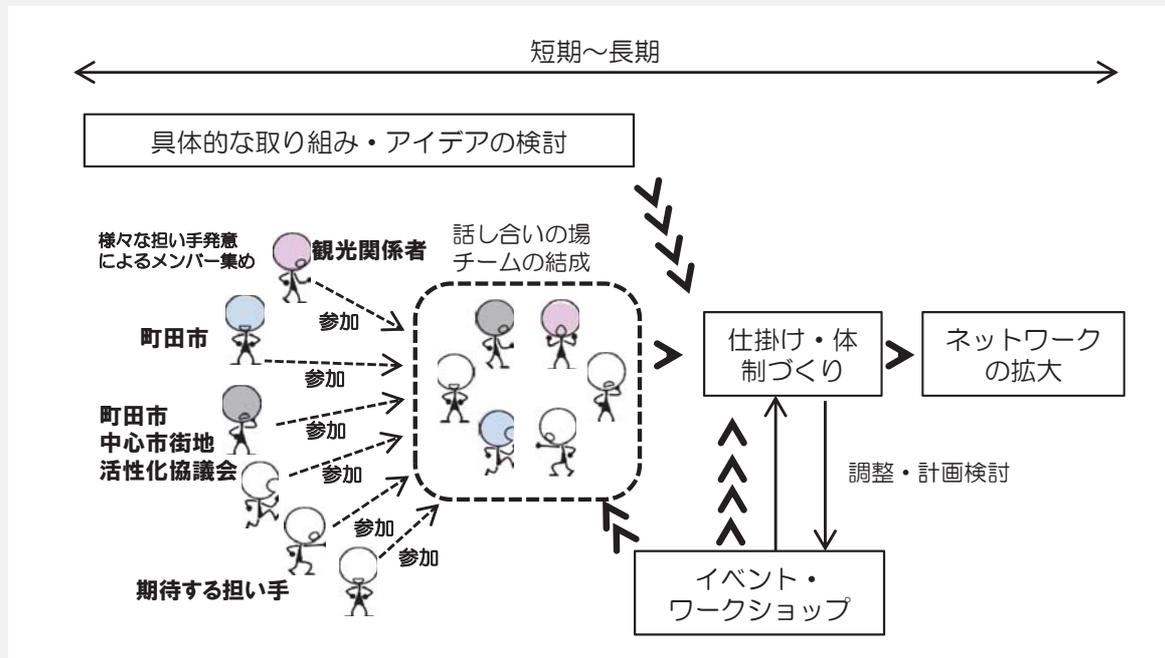


まちづくりの取り組みやプロジェクトのイベント情報を発信する仕組み (HP) / ISHINOMAKI2.0

プロジェクトの進め方

□ プロジェクトの進め方

- 様々な担い手の発意で話し合いの場づくりや情報共有の場づくりを行い、ネットワークの拡大や情報発信コンテンツの充実につなげる



□ プロジェクトの担い手

★：期待する担い手

【取り組み主体】 町田市中心市街地活性化協議会
町田市観光コンベンション協会
町田市

【関係者】 町田商工会議所★ 商業者★ 住民★ 学生★
民間事業者★ 活動団体★ 等

【町田市関係部署】 経済観光部 政策経営部

用語解説

- *①デジタルサイネージ:ここでは、ディスプレイ等を使って案内や広告などを表示するシステムのこと。
- *②Wi-Fi:パソコンなどを無線でインターネットに接続できる技術のこと。
- *③QRコード:二次元バーコードの一種。携帯電話のカメラなどで読み取るとウェブサイトアクセスすることなどができる。
- *④インバウンド:ここでは、海外から日本へ来る旅行者のこと。
- *⑤ソーシャルメディア:インターネットを利用して誰でも手軽に情報を発信し、相互のやりとりができる双方向のメディア (Facebook、Twitter、YouTube、LINE等)。
- *⑥まちだ自慢サポーター:まちだの新たな魅力を創出し、積極的に情報発信をする人。
- *⑦ワークショップ:ここでは、参加者自ら参加・体験して共同で学びあったり何かを生み出したりする場のこと。
- *⑧まちのコンシェルジュ:ここでは、道案内やまちの見どころ紹介などを行うスタッフのこと。

3 まちづくりの進め方

本章では、これからのまちづくりの進め方の視点や、取り組みの効果を把握するための指標の考え方、まちづくりを進めていくための体制を示します。

3・1 進め方の視点

「新しいまちづくりの進め方」の必要性

これからのまちづくりでは、時代に応じて多様化するニーズや予測できない状況の変化に柔軟に対応していく必要があります。

また、人口減少や高齢化、財源縮小等から、行政が中心となり整備を行ってきたこれまでのまちづくりの進め方には限界があります。

そこで、従来のやり方とは異なる「新しいまちづくりの進め方」が必要になります。

「新しいまちづくりの進め方」の3つの視点

商都として早くから栄えてきた町田市中心市街地には将来のまちづくりの担い手となり得る人・組織が数多く存在しています。

また、これまでのまちづくりによってつくられた活用できる資源が充実しています。

これらを活かしつつ、予測できない状況の変化に柔軟に対応していくことを念頭に、以下の3つの視点をもってまちづくりを進めます。



「新しいまちづくりの進め方」の視点 ①

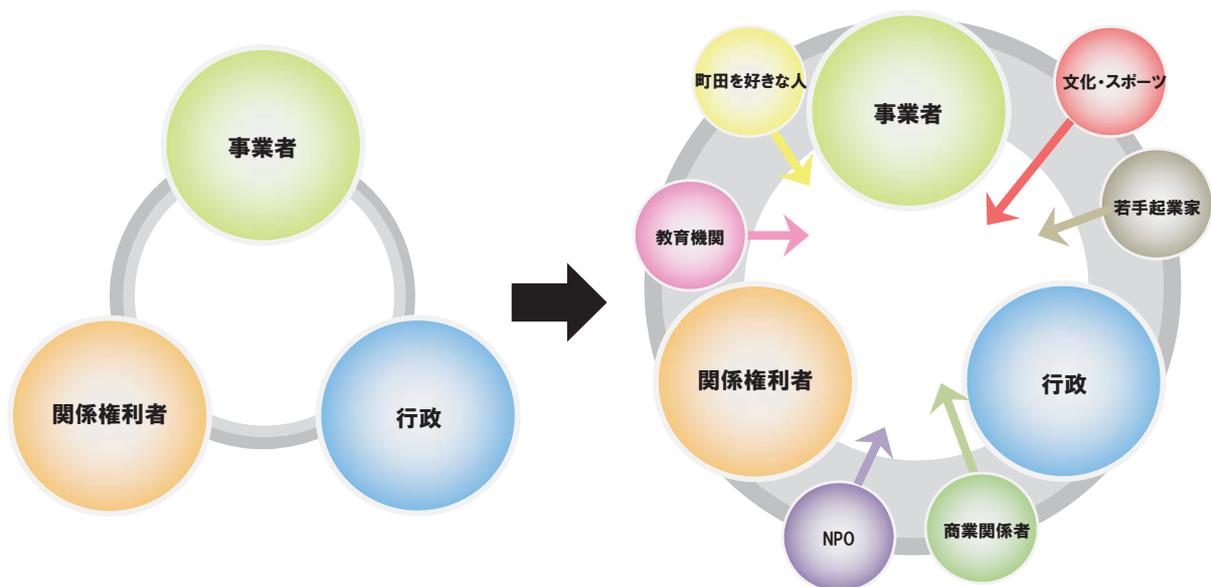
①担い手の拡大

行政+事業関係者（関係権利者、交通事業者等）>>>> 目標を持つ誰もが担い手

これからのまちづくりでは、行政や関係権利者、交通事業者などの事業関係者に限らず、様々な人・組織の視点をまちづくりに活かす必要があります。

一方、早くから商都として栄えてきた町田市中心市街地では商業者や学生、若手企業家、NPO組織などの活動が盛んです。

以上のことから、町田市中心市街地では、誰もが担い手として参加できるまちづくりを進めます。



<担い手の拡大のイメージ>

「新しいまちづくりの進め方」の視点 ②

②既存資源の活用

新たに作り出す>>>>新たに作り出す+今ある資源を磨き、活かし、価値を生み出す

町田市中心市街地には大規模な低未利用地が少ないこと、財源の縮小が見込まれることから、「新たに作り出す」ことだけでまちの魅力向上を図ることは困難です。

一方、町田市中心市街地には、これまでのまちづくりでつくられてきた都市基盤・公共施設や商業・文化施設等、まちの魅力向上につながる“資源”が数多く存在しています。

そこで、必要なものを新たに作り出すことに加えて、今ある資源を磨き、活かすことで、新たな価値を生み出していきます。



「新しいまちづくりの進め方」の視点 ③

③ 柔軟かつ広がりある進め方

1 将来のまちの姿を共有

将来のまちの姿を共有します。



2 できる取り組みから順次スタート

共有した将来のまちの姿の実現に向けて、できる取り組みから順次スタートします。

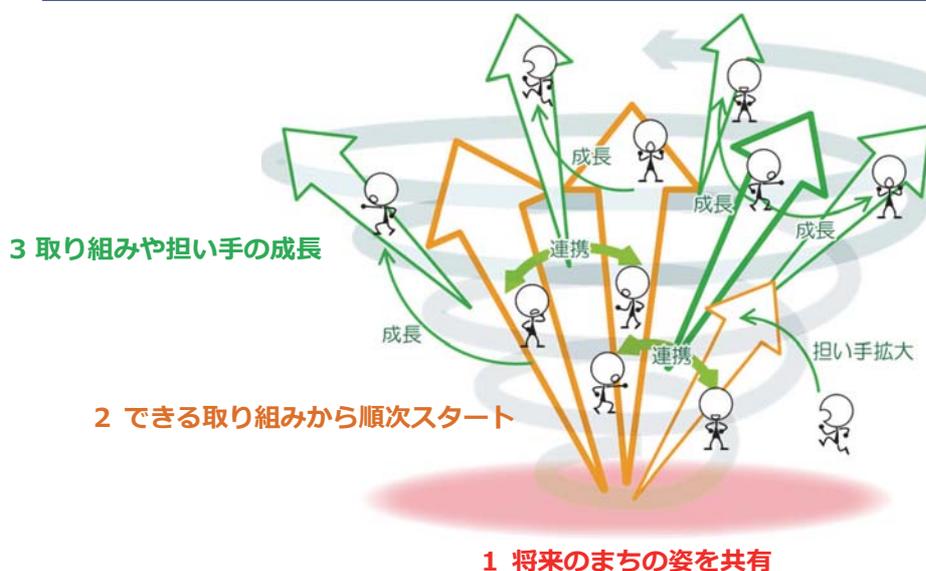


3 取り組みや担い手の成長

取り組みを進めながら改善する柔軟な対応、状況の変化への適応、取り組み同士の連携、新しい担い手の参加により、取り組みや担い手を成長させます。



状況の変化に適応した「将来のまちの姿」が実現



柔軟かつ広がりある進め方のイメージ

3・2 取り組みの評価（指標の設定）

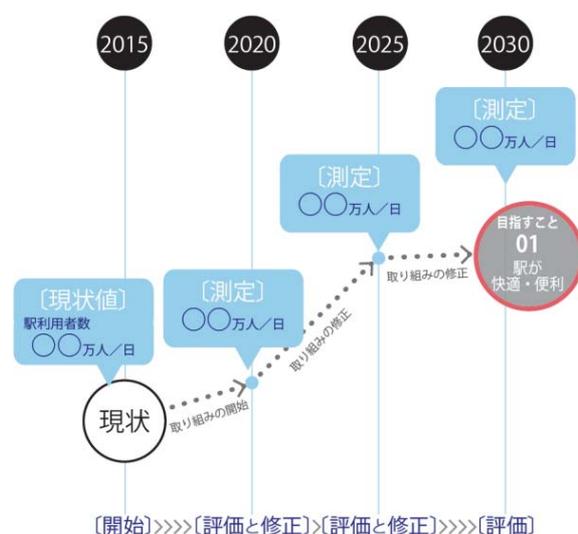
指標設定の目的（まちの変化の把握）

まちづくりの取り組みを進める中で、常にまちの変化を把握することが重要です。

そこで、取り組みによるまちの変化を把握するため、指標を設定し、5年毎に測定します。

指標の活用（取り組みの評価と軌道修正）

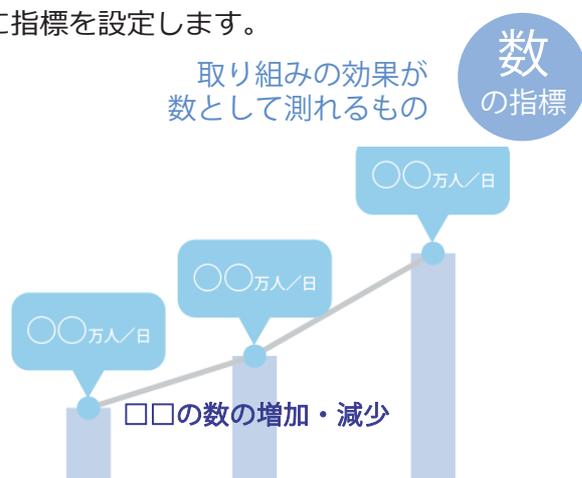
指標の測定結果や、それに対する第三者の意見などを参考にしながら、取り組みの評価や軌道修正を行います。



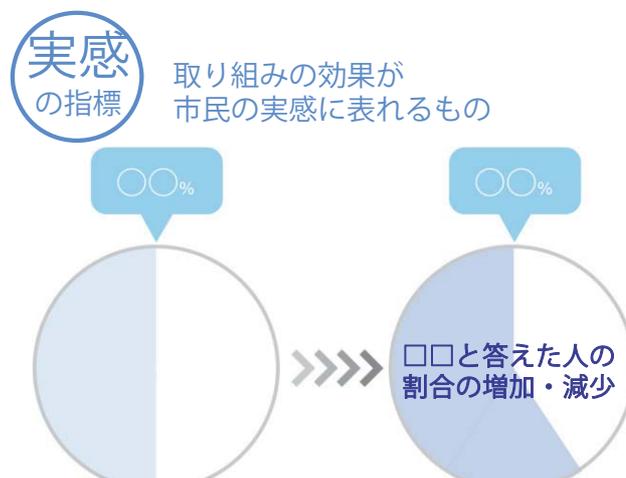
まちの変化の把握による取り組みの軌道修正のイメージ

指標設定の考え方（数の指標と実感の指標）

取り組みの効果には、「数量や値」で測れるものと「人々の実感」に表れるものがあることから、その両面でまちの変化を把握できるように指標を設定します。



例：取り組みが直接影響するもの（バス本数・イベント数の増加）や、様々な取り組みの成果として増加するもの（人数・時間の増加）
⇒統計調査等による集計



例：快適と感じるようになったと答えた人の割合
⇒市民意識調査等による集計

数の指標と実感の指標

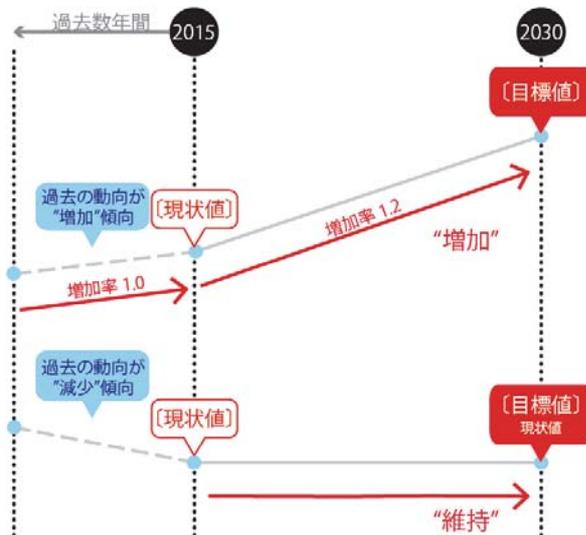
【参考】2030年の目標値の考え方

各指標の2030年の目標値は、以下の考え方に基づいて設定します。

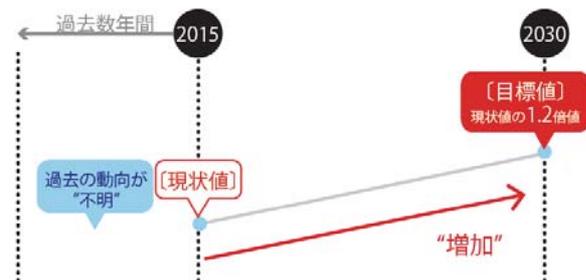


□過去の動向が把握可能な指標

- ①増加傾向の場合
⇒増加率を2割増
- ②減少傾向の場合
⇒現状維持



□過去の動向が把握不可能な指標
⇒現状値の1.2倍



□現状値が40%以上60%未満の場合
⇒60%



□現状値が60%以上の場合
⇒80%



□現状値が40%未満の場合
⇒50%



指標と目標値

取り組みの効果を測定する指標及び2030年の目標値は、次のとおりです。





05
ライフスタイル
の選択肢
たくさん
ある



06
通りが快適で
歩いている
楽しい



- ※1：まちなかでの街頭アンケートによる集計（2013）
- ※2：バス時刻表による集計（2015）
- ※3：各鉄道会社による定期外1日平均降車数（2014）
- ※4：市民意識調査による集計（2014）
- ※5：市民意識調査による集計（2014）
- ※6：まちなかでの街頭アンケートによる集計（2015）
- ※7：まちなかでの街頭アンケートによる集計（2015）
- ※8：まちなかでの街頭アンケートによる集計（2014）
- ※9：指定箇所における1年間のイベント数の集計（2014）
- ※10：市民意識調査による集計（2014）
- ※11：市民意識調査による集計（2014）
- ※12：法人市民税データによる集計（2014）
- ※13：まちなかでの街頭アンケートによる集計（2014）
- ※14：町田市中心市街地通行量調査による集計（2014）

※1～ ※14のカッコ内の数字は、現状値の集計年次を示す。

3・3 まちづくりの体制

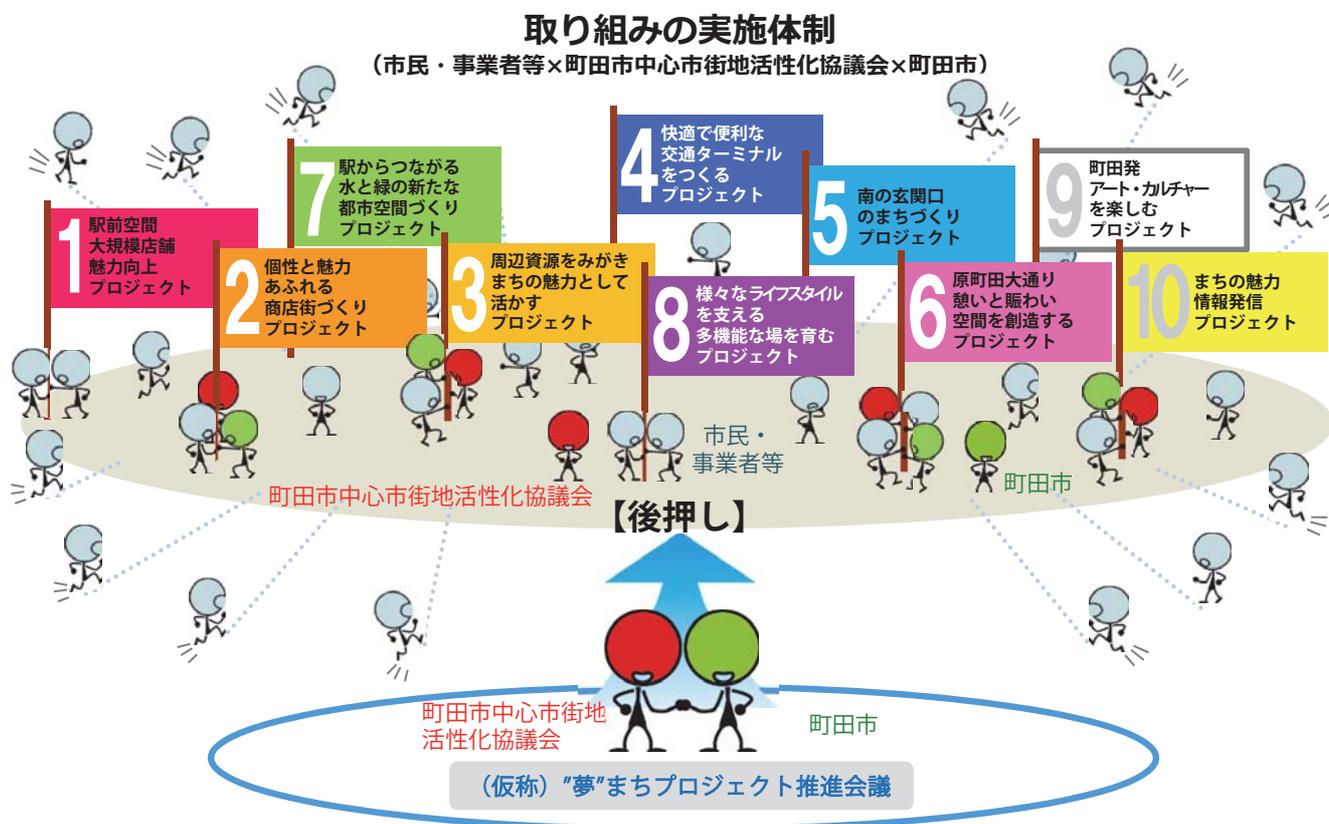
市民・事業者・町田市中心市街地活性化協議会・町田市が「将来のまちの姿」を共有し、協働してまちづくりに取り組んでいきます。

■ 様々な担い手がまちづくりの取り組みを実施

市民・事業者・町田市中心市街地活性化協議会・町田市等が、取り組みの内容や時期に応じて、担い手となります。

■ 町田市中心市街地活性化協議会と町田市が取り組みを後押し

各取り組みの担い手が効果的に動けるようにするため、町田市中心市街地活性化協議会と町田市が、情報提供や必要なサポートを行います。



計画全体の進行管理・取り組みサポートの体制 (町田市中心市街地活性化協議会×町田市)

計画全体の進行管理・取り組みのサポートの体制

将来のまちの姿の実現に向け、「町田市中心市街地活性化協議会※1」と町田市が2015年9月24日に締結した協定に基づき、相互に連携して計画全体の管理や取り組みのサポート等を行います。

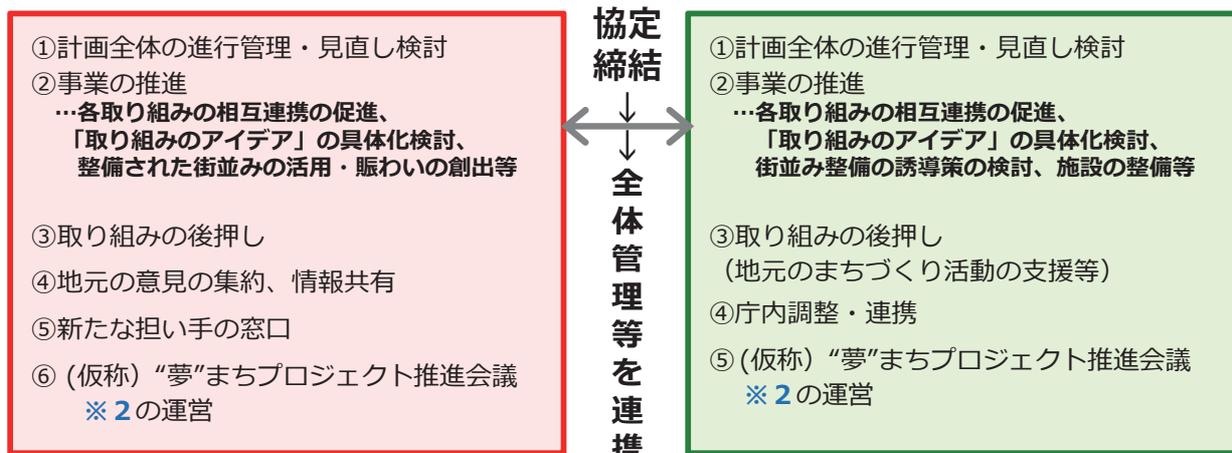
町田市中心市街地活性化協議会

下記①～⑥に取り組みます。



町田市

産業観光課と地区街づくり課が中心となり、下記①～⑤に取り組みます。



※2 (仮称) “夢”まちプロジェクト推進会議

プロジェクトを推進するために、各プロジェクトの進行管理者である町田市中心市街地活性化協議会と町田市、および様々な担い手(次ページ以降参照)で組織します。随時各取り組みの状況の共有、取り組み相互の調整、意見交換等を行います

※1 中心市街地活性化協議会

「中心市街地の活性化に関する法律」に基づく法定協議会。中心市街地の活性化・まちづくりに密接に関係する地元事業者、地域住民代表者などによって構成される、中心市街地の活性化の総合的かつ一体的な推進に関し協議する組織。

取り組みの実施体制

- ・ 進行管理者が中心となり、各プロジェクトの進め方の検討や体制づくりを進めていきます。
- ・ ここに示す担い手に限定せず、各プロジェクトの特性に応じて様々な担い手の参画を促していきます。

各プロジェクトの実施体制（プロジェクト1～4）

| プロジェクト名称 | 取り組みの内容 | 取り組みの担い手 |
|--|---|--|
| | | ①取り組み主体 |
| 1 駅前空間 大規模店舗 魅力向上プロジェクト | 駅前大規模店舗の更新・改善 | 町田市 ■ 大規模店舗事業者 開発事業施行主体★ |
| | 公共施設の更新・改善・活用  | 町田市 ■ 公共空間活用マネジメント組織★ |
| 2 個性と魅力あふれる 商店街づくり プロジェクト | 商店街の個性や魅力ある雰囲気の維持 ●地区計画等のまちづくりルールによる誘導 ●セットバック空間の活用ルール化 | 町田市中心市街地活性化協議会 ■ 町田市 ■ |
| | ●無電柱化 | 町田市 ■ |
| | 快適な歩行空間の実現 ●駐車場施策 ●荷捌き施策 | 町田市 ■ |
| | 個性的な店舗づくり | 町田市中心市街地活性化協議会 ■ し商店街全体をプロデュースできる人★ |
| | 誰にでもやさしい安心・安全な商店街づくり | 町田市中心市街地活性化協議会 ■ |
| 3 周辺資源をみがき まちの魅力として 活かすプロジェクト | 周辺資源のさらなる活用  ●シバヒロの活用 | 町田市観光コンベンション協会 |
| | ●子どもセンターの活用  | 町田市 ■ 公共空間活用マネジメント組織★ |
| | ●芹ヶ谷公園の活用  | 町田市 ■ 公共空間活用マネジメント組織★ |
| | 周辺資源へのアプローチの充実  | 町田市中心市街地活性化協議会 ■ 町田市 ■ 公共空間活用マネジメント組織★ |
| 4 快適で便利な 交通ターミナル をつくるプロジェクト | 快適に使える交通ターミナルづくり ●交通ターミナル機能の集約 ●乗場待機スペースの快適化 | 町田市 ■ |
| | ●案内表示の工夫 | 町田市 ■ |
| | 様々な場所にアクセスできる | 交通事業者（鉄道・バス・タクシー等） |

【キーワード】

- ①取り組み主体：取り組みの実現に向けて、主体的に推進力となる人・組織。
- ②関係者：取り組みの実現の過程で関係する人・組織（取り組み主体を除く）。参画を期待する人・組織。
注）町田市中心市街地活性化協議会 ■ と町田市 ■ はすべてのプロジェクトに関係することから、記載を省略しています。
- ③進行管理者：各プロジェクトの責任者として、プロジェクトの進行管理や担い手の支援を行う人・組織。

■：町田市中心市街地活性化協議会 ■：町田市 ★：期待する担い手
：取り組みの推進に向けて、新たな担い手の参入を特に期待するもの

②関係者

③プロジェクトの進行管理者

小田急電鉄 J R 東日本

町田市 ■

小田急電鉄 J R 東日本 大規模店舗事業者★
 施設・植栽管理維持団体★ 商業者等★

関係権利者 商業者

関係権利者 商業者

町田まちづくり公社 商業者 民間事業者

町田市中心市街地活性化協議会 ■
 町田市 ■

商業者★ 不動産所有者★ 不動産業者★

—

商業者★ 学校★ 学生★ 住民★
 町田商工会議所★ 町田まちづくり公社★ 起業家★

住民★ 学生★ 民間事業者★ 活動団体★ 各分野専門団体★

住民★ 学生★ 民間事業者★ 活動団体★ 各分野専門団体★

町田市 ■

町田市観光コンベンション協会★
 住民★ 学生★ 民間事業者★ 活動団体★ 各分野専門団体★

住民★ 学生★ 民間事業者★ 活動団体★ 各分野専門団体★

交通事業者（鉄道・バス・タクシー等） 関係権利者

小田急電鉄 J R 東日本

町田市 ■

—

各プロジェクトの推進体制（プロジェクト5～10）

| プロジェクト名称 | 取り組みの内容 | 取り組みの担い手 |
|---|---|---|
| 5 南の玄関口 のまちづくりプロジェクト | 町田駅南側に来街者を迎え入れる玄関口をつくる | 町田市 ■ 開発事業施行主体★ |
| | 町田駅南側からまちなかへのアクセス強化 | 町田市 ■ |
| | 駅前生活拠点づくり | 町田市 ■ 開発事業施行主体★ |
| 6 原町田大通り 憩いと賑わい空間 を創造するプロジェクト | 原町田大通りを活用した憩いの空間づくり  原町田大通りを活用した賑わいの創出 | 町田市中心市街地活性化協議会 ■ 公共空間活用マネジメント組織★ |
| 7 駅からつながる 水と緑の新たな 都市空間 づくりプロジェクト | 駅近くの新たな都市空間づくり 団地再生に伴う住環境・都市基盤の整備 | 町田市 ■ 東京都住宅供給公社 開発事業施行主体★ |
| 8 様々なライフスタイル を支える 多機能な場を育む プロジェクト | 将来の担い手の活躍の機会づくり  ●ビジネス創出や拡大の仕組みづくり | 町田市 ■ 町田商工会議所 町田新産業創造センター 起業を支援する民間組織★ |
| | ●若い世代の活躍の機会づくり  様々なライフスタイルを生み出す 個性的な不動産活用の仕組みづくり  | 町田市 ■ さがまちコンソーシアム★ 不動産活用の仕組みを作る組織★ |
| | 生活を支える機能の導入推進 | 町田市 ■ |
| | 商業環境と調和したみどりある良好な住宅の誘導 | 町田市 ■ |
| 9 町田発 アート・カルチャー を楽しむプロジェクト | アート・カルチャーの拠点づくり ●（仮称）国際工芸美術館の整備の検討 | 町田市 ■ |
| | ●（仮称）高ヶ坂縄文時代遺跡ガイダンス施設の整備の検討 | 町田市 ■ |
| | ●芹ヶ谷公園の再整備 | 町田市 ■ |
| | ●文化芸術ホールの検討 | 町田市 ■ |
| | まちなかでのアート・カルチャーコンテンツの充実 アート・カルチャーのネットワークづくり  | アート・カルチャーに関わる 人・団体・施設が集まる組織★ |
| 10 まちの魅力 情報発信 プロジェクト | 駅前におけるまちの情報発信の仕掛けづくり  まちの情報や魅力を市内外に発信する仕掛けづくり | 町田市中心市街地活性化協議会 ■ 町田市観光コンベンション協会 町田市 ■ |

【キーワード】

- ①取り組み主体：取り組みの実現に向けて、主体的に推進力となる人・組織。
- ②関係者：取り組みの実現の過程で関係する人・組織（取り組み主体を除く）。参画を期待する人・組織。
注）町田市中心市街地活性化協議会 ■ と町田市 ■ はすべてのプロジェクトに関係することから、記載を省略しています。
- ③進行管理者：各プロジェクトの責任者として、プロジェクトの進行管理や担い手の支援を行う人・組織。

■：町田市中心市街地活性化協議会 ■：町田市 ★：期待する担い手
👉：取り組みの推進に向けて、新たな担い手の参入を特に期待するもの

③プロジェクトの進行管理者

②関係者

関係権利者

J R東日本

町田市 ■

関係権利者

商業者★ 活動団体★ 各分野専門団体★ 学生★ 個人★ 企業★

町田市中心市街地活性化協議会 ■
町田市 ■

関係権利者 小田急電鉄 J R東日本

町田市 ■

不動産所有者★ 民間事業者★ 金融機関★ 起業家★ 学校★ 学生★

学校★ 学生★

町田市 ■

民間事業者★ 不動産所有者★
不動産業者★ 起業家★ 町田商工会議所★ 金融機関★

住民★ 民間事業者★

住民★ 民間事業者★

—

—

—

町田市 ■

アーティスト★ 住民★ 学生★ 学校★ 活動団体★ 文化施設所有者★
民間事業者★ 町田市観光コンベンション協会★ 国際版画美術館友の会★

町田商工会議所★ 商業者★ 住民★ 学生★ 民間事業者★ 活動団体★ 等

町田市中心市街地活性化協議会 ■

